

感染症発生動向調査委員会報告 5月

《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告数が例年に比べて多い状態が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症や咽頭結膜熱などに注意が必要です。

全数把握疾患

<コレラ>

O1エルトル小川型の報告が1件ありました。マレーシア(コタキナバル)での経口感染が推定されています。

<腸管出血性大腸菌感染症>

3件(O157 H7VT2 2件、O157 VT1VT2 1件)の報告がありました。O157 H7VT2の2件は、妻の発症(横浜市内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因不明)後、接触者検診で夫の感染(無症状保菌者)が確認されたものです。O157 VT1VT2の1件は国内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因は不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意が必要です。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあるので注意しましょう。また、感染者から2次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<A型肝炎>

2件の報告がありました。うち1件の遺伝子型はI aでした。どちらも国内での経口感染が推定されていますが、明らかな原因は不明です。

<レジオネラ>

肺炎型2件の報告がありました。1件は横浜市内での水系感染(自宅浴槽からLAMP法でレジオネラ陽性)、もう1件は神奈川県内での塵埃または水系感染(こちらも自宅浴槽からLAMP法でレジオネラ陽性)が推定されています。同居家族の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ肺炎では、2~10日程度の潜伏期間の後、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、高熱等の症状を呈します。β-ラクタム系及びアミノ配糖体系抗生物質は無効で、マクロライド系、ニューキノロン系等が有効です。入浴施設の利用歴等の確認が重要です。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は国内での性的接触による感染、1件は感染地域、感染経路とも不明、もう1件は中国での経口感染が推定されています。

<急性脳炎>

30代の報告が1件ありました。病原体、原因等不明です。

<クロイツフェルト・ヤコブ病>

1件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。手術歴、渡英歴等ありませんでした。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

定点把握疾患

平成24年4月23日から平成24年5月27日まで(平成24年第17週から平成24年第21週まで。ただし、性感染症については平成24年4月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

第17週	4月23日～29日
第18週	4月30日～5月6日
第19週	5月7日～13日
第20週	5月14日～20日
第21週	5月21日～27日

1 患者定点からの情報

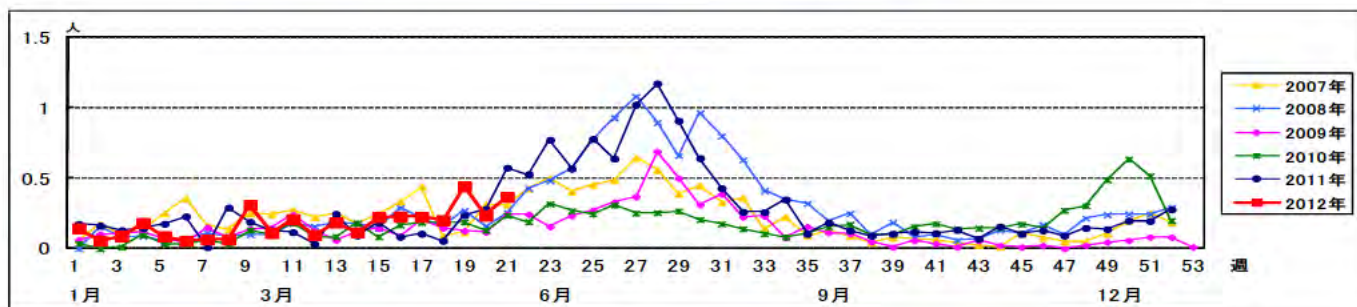
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<咽頭結膜炎>

市全体で第21週0.37と落ち着いており、区別にみても流行はみられません。ただ、例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。本疾患は発熱、咽頭炎、眼症状を主症状とし、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。原因ウイルスはアデノウイルス3型が主ですが、1、4、7、14型も知られています。特に7型は乳幼児や老人では重篤な症状となることがあるので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。

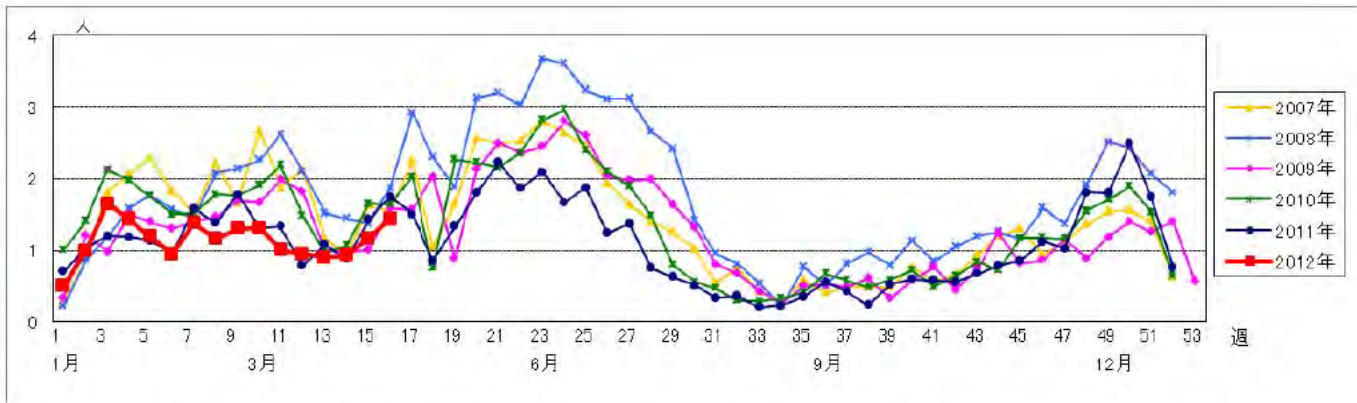
◆国立感染症研究所:咽頭結膜熱とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc/392-encyclopedia/323-pcf-intro.html>



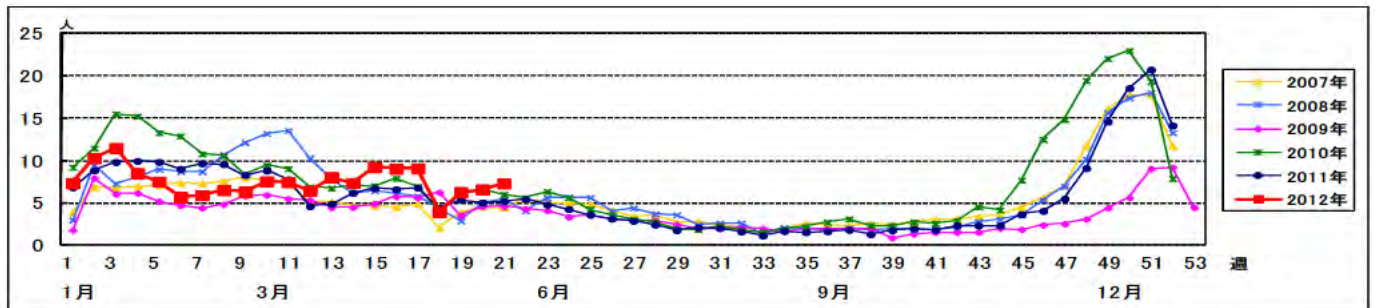
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり 8.0 以上)を大きく下回っていますが、第18週 0.44、第19週 1.28、第20週 1.96、第21週 2.18と若干増加傾向です。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



< 感染性胃腸炎 >

市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり20.0以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数が多い状態が継続しており、集団発生の報告もあることから引き続き注意が必要です。



< 性感染症 >

4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が0件でした。

< 基幹定点週報 >

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、18週0.66、19週0.74、20週0.79と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第18週0.00、19週0.00、20週1.00と、前シーズンの第18週0.00、第19週0.00、第20週0.00をやや上回っています。細菌性髄膜炎が17週に1件(乳児。原因菌は肺炎球菌。小児用肺炎球菌ワクチン3回接種歴あったものの、ワクチンと血清型が異なっていました。)ありました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

< 基幹定点月報 >

4月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便5件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点10件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液4件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎26人、下気道炎14人、胃腸炎5人、インフルエンザ2人、発疹症3人、耳下腺炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は髄膜炎、脳炎、脳症、不明熱、発疹症、血小板減少性紫斑病各1人でした。

6月11日現在、小児科定点のインフルエンザ患者2人と気管支炎患者2人からインフルエンザウイルスB型、上気道炎患者2人からアデノウイルス2型とアデノウイルス3型、耳下腺炎患者1人からムンプスウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の胃腸炎患者1人からロタウイルスA群、下気道炎患者1人からメタニューモウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が17件、定点以外の医療機関等からは7件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT2、O165:H-,VT2)、腸管病原性大腸菌(O128:H2)、チフス菌、サルモネラが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から12件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌が検出されました。基幹およびその他の医療機関等からは3件で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2012年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						2
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			2			8
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
チフス菌					1	
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
コレラ菌			1			2
不検出	0	5	4	0	64	8

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2012年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				4		
T1						
T6	1			2		
T4				2		
T12	2			10		
T25	1			1		
T28	1			3		
T B3264				3		
B群溶血性レンサ球菌						11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					3	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌	1			2		
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
<i>Mycobacterium avium</i>			1			1
不検出	4	1	9	14	6	16

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】